



by 大里千尋

日々制作...



by 大木翔吾

全国的に猛暑が続いておりますが、皆さまお身体にお変わりはございませんか？

近頃、私がメールやお手紙を送ると「私も送ろうと思ってた！」と言われることが多く、物事の必然性を感じている日々です。

先日の出来事。

私がデフパペに入ったばかりの頃からのお付き合いで、デフパペの活動にとっても理解をいただいている方にメールをしました。その方が元気でいらっしゃるのかどうか気になっていましたし、出張で近くまで行くので会えるかなーと思いながらのご連絡でした。

お返事には、「ちょうどご連絡しようと思っていましたよー!必然ですわー!」と。

上演もお考えいただけていたようで、健聴者とろう者の子どもと大人が、同じ絵本を見て、同じタイミングで笑ったり、悲しんだり出来たらいいな〜っと思っていて、それを実現しているデフパペを呼ぶのは私の夢だとお話させていただきました。

デフパペは、一人一人の方の思いが集まって実行委員会になり、今があるのだなあ、と改めて感じた出来事でした。

こんにちは。ぼんちゃんこと、制作担当の大木翔吾です。このコーナーを書く時、このデフパペニュースを読んで下さる方々への思いを書くかどうかいつも悩みます。デフパペを応援して下さい方には、いくら感謝しても足りないのですがそれを書いていると、毎号同じ文書になってしまうので今回も断腸の思いで他の事を書きます。

さて、心構えのお話でございます。私と会った方は想像つくかと思いますが、いつも荷物がギッシリ詰まったリュックを背負ってますよね？当然、出張中の着替えなどが入っているのですが、実は普段の荷物も服以外はそう変わりありません。

何故かと言えば、「商談セット」を常に持ち歩いているためなんです。まあこの名前、デフパペには似合わないのですが前職トヨタ営業マン時代の名残なので勘弁してください。セットの中身は、劇団紹介DVD・『森旅』パンフレット・『森旅』チラシ・『森旅』企画書・全作品パンフレットに人形劇センター資料を各複数部。これに名刺を常に数十枚、電卓と舞台寸法を測るメジャーが加わってセットの完成。実用的に役立つ他、「いつでもデフパペの話できるぞ!」という心構えでいるということでございます。・・・トヨタ時代はこの他、『10mmのスパナ』が加わります。クルマ屋さんのあるあるネタなんです、わかりませんよね。失礼しました。

3ヶ月に一度のこんにちわ

デフパペメンバーが
交代でお便りします

by 牧野英玄

先日飯田市のいいだ人形劇フェスタにて、やなせさんの「音を作ろうワークショップ」の助手をしてまいりました。もともとはろう学校に通う幼稚部から小学部を対象として色々な音に触れ合おうというワークショップなのですが、用意されている楽器は様々です。例えば、アフリカ太鼓のジェンベや雨の音がするレインスティック、色々な大きさのフライパン、他にもたくさんあります。

普段触れない楽器ばかりなので、聴こえる方でも充分楽しめる！

いいだ人形劇フェスタの時も聴者の大人の方々が参加していただきました。

僕も一緒に参加して難しいと思ったのは、それぞれ違う楽器で楽器の音で会話することでした。楽器の音の出し方や自分の表情、相手の表情を読み取ることで会話する。もちろん、そこに上手い下手や正解や間違いはありません。だけど、僕の音が1番分かり難かったような気がします。多分、音を上手く出そうとこだわり過ぎて自分の表情が乏しくなってしまったので、相手に伝わりにくくなったのかなと思いました。

手話も表情がないと伝わりにくい、歌も表情がないと伝わりにくい、そして、音も同じことなんだなあ。

うむ…音も実に奥深いですね…。



ご報告



「ひょっこりひょうたん島」の人形デザインを手がけた片岡昌が、7月28日永眠いたしました。デフパペ作品でも人形デザインを数多く手がけた、ひとみ座を代表するデザイナーでした。片岡さん、素敵な人形たちを世に送り出してくれて、ありがとう！

制作の本宮麻希子が、諸事情により退団いたします。短い間でしたが、お世話になった方々にお礼申し上げます。

デフ・パペットシアター・ひとみ 友の会会員募集中！

年会費 1,500円 ペア会員 2,500円
お申込み方法はデフパペ事務所までお問い合わせください。

デフ・パペットシアター・ひとみ

やなせけいこ 榎本トオル 大木翔吾
善岡修 鈴木文 大里千尋
牧野英玄 白井赫

「人形」其の八

縄文時代の交易というと、黒曜石がよく引き合いに出される。これは出産地がほとんど限定されていて、それが意外に遠くまで分布していることから、非日常的行動の結果ではないだろうと思われるからである。しかしこれには別の考えもあって「縄文人はハンターだろう、彼等は1日二百キロ走った筈、動物と並んで走らなければならなかったからネ、江戸時代の獵師だって五十里駆けたという。忍者もネ。現代でもニューギニヤの山地の連中や南米ペルーの山地民には女子供でも百八十キロ位駆けるヨ、縄文時代関東の海岸付近から信州八ヶ岳辺なら二、三日あれば御釣りが来る。黒曜石の貯蔵が減ったら一人か二人で取りに行けば済む事、交易なんて大袈裟な事をしなかったんじゃないか」

この御説、最ものようなれど、縄文文化をちょっと軽く見ているんじゃないですか。文化は他と区別される事で明らかになるものです。その区別される部分は日常生活上無駄に見えるものである。そして、それは、事ある度に大袈裟なものになる。無駄なことを大袈裟に行う。これは昔も今も変わらない。ここで、その無駄な行事の典型としての黒曜石の交易を復元してみよう。

関東に海岸に近い蠣殻婆村は五十人を超す大きな集落である。ここで五年振りに黒曜石交易団を編成した。二十人余りの中で八人が女と子供である。いつも停滞した集落での生活をやがて一新させるのは彼女達であろうと思われる今回のこの交易団の目玉はこの女子供である。余程豊かな村でないといヶ月も遊び歩けない。蠣殻婆村の実力をこうしてアピールするのである。そして目的の赤鼻ふくろう村に段々近づいて来ると大きな任務を果たす役割の緊張が高まって来る。明らかに赤鼻ふくろう村の領域に入った所で皆はピタリと口を閉じた。そして一本の木から木に渡された綱を発見すると顔を見合わせて立ち止まった。この先は無断で入れれば侵入者と見做され攻撃を受ける。一同は揃って大声で歌を

唄い始めた。それに合わせて足が動き踊り始める。

その頃赤鼻ふくろう村の長老ボンボコは三人程の取り巻きを従えて居たが、この歌声を聴いて「蠣殻婆村の連中やっとな着きおったか、村に入れて手厚くもてなせ」と言う。一人が歌って踊ってみる。蠣殻婆村の連中に村に入るように伝えた。しかし連中は「呼ばれた訳でもないのに、勝手にやって来たのでそんな失礼は出来ません。」男は長老の元へ戻る。こんなやり取りが繰り返されやっとな一同が村に入った頃には赤鼻ふくろう村の連中も、総出で歌って踊って迎えてくれた。お判りですか、縄文の人々は歌と踊りという芸能で人々を認知していたのです。この復元はどこ迄正確かは判らないが、概ねよろしいのではないかと思います。こうして歌と踊りは日本芸能の根幹となった。彼等は歌によって出身地を判断した。これが縄文時代に交易を行わせる事を可能にしたシステムなのだ。その後日本の社会は、何々時代と呼ばれたが、この機能はいつの時代にも働いていた。(次号に突撃)

文：宇野小四郎

公演スケジュール

8月～12月 (8月20日現在)

「森と夜と世界の果てへの旅」

- 8月31日(土) 静岡県浜松市 浜松市福祉交流センター (開演13:30)
- ★10月5日(土) 鶴見短期大学 (開演13:00)
- 10月26日(土) 島根県海士町 隠岐開発総合センター
- 11月2日(土) 島根県大田市 サンレディ大田(開演14:00)
- 11月4日(月・祝) 島根県雲南市 チェリヴァホール (開演14:00)
- 11月6日(水) 鳥取県倉吉市 倉吉未来中心(開演19:00)
- 11月9日(土) 高知県高知市

2014年3月28日～30日 横浜公演決定!

会場：KAAT神奈川県芸術劇場<大スタジオ>

28日(金) 14:00 / 19:00

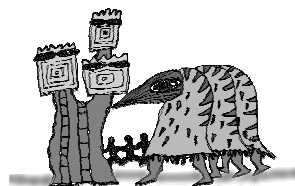
29日(土) 14:00

30日(日) 14:00

全席自由 3,000円(税込)

※こども(中学生以下)2,000円(税込)

<当日各500円増>



みなさまどうぞご期待下さい!!!

「稲むらの火」

9月16日(月・祝) TVKハウジングプラザ住宅展示場

- ★10月1日(火) 駒沢小学校
- ★12月7日(土) 立川ろう学校
- ★12月17日(火) 杉並第十小学校

★は学校公演です。観劇ご希望の方はデフパペ事務所までご連絡下さい。

「一寸法師とおたのしみ交流会」

- 8月17日(土) 兵庫県南あわじ市 洲本市民交流センター (開演13:00)
- 8月18日(日) 香川県高松市 さぬきこどもの国 (開演11:00/14:00)

「人形作りワークショップ(やなせ)」

11月17日(日) 横浜市

「ワークショップ(善岡)」

9月8日(日) 厚木市

追加・変更される場合もありますので、詳しくはデフパペ事務所にお問い合わせ下さい。